

平成 28 年度 第 5 回 八幡市子ども・子育て会議

会議録

平成 29 年 1 月 24 日（火）午後 2 時 00 分～

八幡市役所分庁舎 会議室 A

1 開会

事務局：定刻となりましたので、ただいまから平成 28 年度第 5 回八幡市子ども・子育て会議を開催させていただきます。みなさんにおかれましては大変お忙しい中、お越しいただき、ありがとうございます。本日の会議につきましては八幡市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項の規定により、過半数以上の出席をいただいておりますので会議が成立していることをここでご報告いたします。続きまして、会長よりごあいさつをお願いいたします。

会長：みなさん、こんにちは。お忙しいところ、ありがとうございます。今まで私たちは、八幡市の子育てを取り巻く現状や子ども・子育て支援新制度を勉強し、前回は、認定こども園を見せていただきました。今日は、アンケート調査結果の速報がありますので、具体的に市民のみなさんがどのように感じているのか、興味あるデータをお知らせいただく予定です。その後、これからの幼児教育を見直す話にいよいよ入っていきます。自由にご意見や感想等をお話いただければと思っていますので、よろしくをお願いいたします。

事務局：ありがとうございます。それでは議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。

（資料確認説明）

それではこれ以降の当会議の議事進行につきましては、会長をお願いいたします。みなさんにおかれましてはご審議のほど、よろしくをお願いいたします。

2 議事

(1) 八幡市就学前施設についてのアンケート調査結果について

会長：それでは、議事の 1 番目について、事務局より詳しく説明をお願いいたします。

事務局：（「八幡市就学前施設についてのアンケート調査結果報告書（速報値）」について説明）

会長：ありがとうございました。八幡市の現状について、どのように受け取られているのか。どのようなことでも構いませんので、ご意見やご質問をお願いいたします。

園の先生方は日頃、見ているところから思われることもあると思います。今日は保護者の方の感想等から入っていただければと思います。

委員：我が家は、公立幼稚園へ通わせています。園の子どもたちの人数が少なくなって、運営していくにはむずかしい部分があると思います。先生が目が1人1人に届いていて、親も他の子どもの顔が見ることができ、その親の顔も分かり、非常に安心して通わせられています。認定こども園に移行していく際は、そのような安心した子育てができる環境を残したままで変えていただければと思います。

会長：その通りだと思います。自由記述にもありましたが保育内容がよいと書いていただけことは素晴らしいと思いました。それはぜひ残していきたいと思います。何かありませんか。

委員：フルタイムで働いている方が思ったよりも多いという感想でした。安心して働けるような時間や施設が充実していることを改めて感じました。

会長：ありがとうございました。アンケート結果でも働きやすいところだと書かれていました。これもその通りに活かしていかなければならないと思っています。

委員：私の場合は子どもが小学校に行っていますので、就学前のことを思い出していません。私立幼稚園に通わせていました。時間は遅くまでされていて、家の近くまでバスも来てくれていましたので、自分の時間も取れて、ありがたかったと思っています。ただ、送迎バスで通わせていると、他の園児のお母さんとの情報交換があまりなかったのも、さびしきもありました。

会長：情報交換については、工夫していければ私も感じていました。

委員：我が家には、5歳と2歳の子どもがいます。おにいちゃんは今、公立認定こども園へ通っています。これは妻の意見になりますが、幼稚園や保育園で保護者会の会議中だけでも見ていただきたいという声がありました。私は、仕事関係で他府県・他市町村の方と話しますが、八幡市の就学前施設は整っていて、素晴らしいと思います。個人的な意見として、そのようなものがあれば助かります。

会長：部分的にお聞きしただけでも、アンケート結果のデータは非常に信頼度が高いと考えてもよい資料だと感じました。今後、少しくロス集計を追加していただきたいと思っています。いかがでしょうか。何かありませんか。

委員：事務局の説明にもありましたが、保育時間の項目では、認定こども園も公立で満足度が低くなっています。有都こども園の保育時間は18時までですので、そこが今後の課題であると感じています。給食の満足度は高い結果でしたので、引き続き、食育にも力を入れていきたいと考えています。

会長：ありがとうございます。これでこうしたら良いという考え方のベースになるデータが得られたということで、非常にありがたい資料になっていると思います。他にはいかがでしょうか。

委員：非常に分かりやすくまとめていただきまして、ありがとうございます。保護者たちが何を求めているのか、これを見ると一目瞭然です。給食に関する重要度、これが非常に高いことは当然のことだと思います。子どもが育っていく中で、食べることは非常に大切なことですので、保護者の方たちもそのことを重要に考えているということです。私たちは認定こども園に変わり、給食の満足度が公立認定こども園と比べて、少し低いようです。何が課題なのか、私たちの園でも検討していきたいと考えています。夕方遅くまで残っている子どもが多いこともあり、お昼ごはんのみではなく、おやつの実や栄養価の問題、そのようなところも大切なポイントではないかとこれを拝見させていただき、感じた点でした。

会長：ありがとうございます。設問に『八幡市に住んで良いと思ったことは何ですか』と聞いているところがあります。良いことばかり聞いていてもいけないと書かれた一文がありました。私はそれを見て、それは違うと思いました。全体像を見るためには必要なことと思っており、課題点とともに、全てを併せた八幡市の幼児教育の姿を捉えなければ、一面的だと思います。両方を知ることが必要だと思います。八幡市の幼児教育がどのようなものなのか、さまざまなことで議論したこと、私たちが一生懸命やってきたことが必ずしも100%、相手に伝わっていない、相手はそうに思っていない、ズレも見なければいけません。取り組んでいても私たちはこう感じているという両方を付け併せる必要性もあります。変えることや不満ばかりを取り込むことは違うと思います。両方するという意味でデータが揃ったときに併せて見るとよろしいかと思えます。一生懸命にしていることが伝わっていなかったことが分かったときにはそこに何かあるのか、施策を出すことも1つです。そのようなズレも見えていくとよろしいかと思えました。何でも構いませんのでいかがでしょうか。

委員：ありがとうございます。今、保護者の方のさまざまなニーズを見せていただき、聞かしていただきました。私は今、現場から少し離れた立場にはいますが、現場経験者として、保護者の方が教育・保育の内容を非常に大事だと思ってくださっている方が多くいます。最近、子どもが育ちの中で人と関わる力がずいぶん弱くなってきている状況の中、保護者の方もここが大事だとしっかりと分かってくれていることがありがたいです。園側にとってはそのような充実した教育・保育を進めていくことについて、これを見ながらもう一度、気持ちを引き締めなければ

ならないと思いました。

会長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

委員：公立幼稚園に勤めています。これを見せていただき、保育時間に関しての公立幼稚園のやや不満と大変不満の数値が非常に高くなっていました。本来、幼稚園は教育時間の中で保育をさせていただいていますが、今は勤めている保護者が多く、また、子育てに対して、家に帰っても遊ぶ友達がいないこともあり、幼稚園でもう少し、長い時間を過ごせればという思いや子育てに対するさまざまな心配等も含めて、この数字が挙がってきていることを今、改めて見せていただきました。今までの方法ではなく、次の段階に公立幼稚園も考えていかなければいけないことを強く思いながら見せていただきました。また、先ほど言われたように、保護者の顔がお互いよく見えてよく分かること、他の子どもたちの様子もよく分かり、その良さを分かっていたいただき、ありがたいと思いました。そのようなことも含めて、今後の公立幼稚園の進め方はこども園へ移行していくことに向けて、その良さも活かしながら保育時間等について、根本的に考え直さなければいけないと思いました。

会長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

委員：こども園、幼稚園と続いたので、公立保育園について、感じたことです。何を基準に私たちを選んでいただいているのか、非常に興味を持っていました。家に近いところを選ばれることは、仕事をされているお母さんとお父さんにとっては一番だろうと思っていました。他の先生が言われたように教育・保育内容に興味を持っていただいていることが数字に出ています。この結果から、どのように私たちが実際に内容を伝えているのかをもう一度改めて、考えなければいけないと思いました。待機児童がないところが、八幡市は非常にがんばっていて、ここは充実されています。働きやすい八幡市と感じていただいているのであれば、充実した保育環境を整えていけるように考えていかなければいけないと強く感じました。古くなっている部分もありますので、子どもをお預かりする立場としては安全対策も考えていかなければいけないとも思いました。

会長：ありがとうございます。さまざまなすばらしいポイントをつくっていただいたと思います。私も全体的に読んで、よい意味で普通の保護者の方の姿勢を感じることができました。しかし、社会の進み方との狭間で悩んでいる姿が保育時間へ典型的に表れていると思います。そのあたりについては、考えていかなければいけないと思いました。また、教育・保育の内容について、私は結果を見てほっとしました。そのようなことに関心を持っていただける市民の方であれば、よき幼

児教育に対する、ここで考えている考え方も受け止めていただけるのではないかと
という予感を感じました。他になければ次に進みたいと思いますが、よろしいで
しょうか。

(2) 就学前教育・保育の更なる充実について

会長：それでは2番目の議事に入ります。事務局より説明をお願いいたします。

事務局：(「就学前教育・保育の更なる充実について」について説明)

会長：ありがとうございました。これからの対策を練るために必要な考え等を聞くこと
ができました。これについて、何でも構いませんのでさまざまな視点でのご意見を
いただきたいと思えます。

委員：今の就学前施設の現状や課題も現場が感じていることをよくまとめていただい
ていると思ひながら、説明を聞かせていただきました。子育て支援の充実、子育て
家庭への支援では、幼稚園でも園開放を行っています。園開放は、今度就学する
子どものみではなく、年々、0、1歳の小さな子どもたちが園に来てくださる数
がずいぶん増えました。子育て支援センターなどもあります、家から身近なと
ころで行けるということで0、1、2歳のお母さんたちも来てくださいます。他
の子どもたちと遊んだり、みんなで歌や手遊びやダンスをすることでとても喜ん
でいただけて、「また来ます」と言って帰る姿があります。それだけ、家庭で子育
てをしていることへの不安感やさびしさ、いろいろな人とたくさん話をしたいと思
っていることなどを、園開放ではいつも感じています。そのあたりについて、し
っかりとした形でますます充実させて進めていきたいと思ひています。

公立幼稚園では、園児数が少なくなることに伴いクラス数も減り、職員数も減っ
ています。保育内容等、さまざまなことに取り組みたいと思ひますが、少ない人
数の中で行うため、やりにくいところもあり、タイトな状況で進めているところ
があります。

職員研修について、幼稚園は、10年研修もありますが、府の経費で、新採の職員
が1年間、新採研修を受けられます。指導員が1人付いての研修になりますが、
その1年間で職員がさまざまなことを多く学び、子どもたちをまとめる力等が身
に付きます。そのようなことを取り組んでいくためには、研修時間を確保し、研
修するために代わりの教諭が必要です。また、研修をしっかりと充実させていく
ためには、職員体制もある程度の規模が必要だと思ひます。保育園では職員研修
が時間的に厳しいこともあります。幼稚園が持っている良さはしっかりと残して、
研修をしっかりと職員がしていくことで教育・保育内容の充実に繋がっていくと

思います。外に出ていく研修も必要ですが、園内で毎日の保育を振り返る、自分だけの振り返りだけではなく、先輩教諭や同僚と自分の保育について、さまざまなことを話し合う中で次に繋げていくことが全体のスキルアップに繋がっていくと思います。職員体制と共に研修時間の確保もしっかりとしていくことが必要だと思います。今、聞かせていただきました。

会長：よく分かりました。新採研修がそのように行われていることを私はよく知りませんでした。1人、じっくり付いてということでしょうか。

委員：そうです。

委員：いくつか、伝えたい思いがあります。子どもや子育てを取り巻く現状を1番にまとめていただいている部分が非常に的確で分かりやすいと私は思いました。今は現場から離れて、養成の方に行っています。これをそのまま使いたいくらいです。実際に社会の状況がこのようになってきて、子どもを取り巻く環境が非常に厳しくなっている現状が1つに整理されていると思います。

これからの更なる充実のため、さまざまな研修の機会が必要だと思います。質の向上を簡単な言葉でまとめてしまいがちです。それを実際に向上させるためには、何をどのように確保していくのか、具体的なものが重要だと思います。その1つとして、今、先生が話されていましたが新採研修もその1つだと思います。公立幼稚園では、新採の先生が入ると、9月までに10日間、1人の指導員が付いて、保育を実際に携わり、一緒に勉強していきます。去年度、私の園でもいましたが、その職員は保育園から幼稚園に変わってきて、保育のノウハウがまだ分からない状態にありました。そこで10日間、しっかりと指導の先生に付いていただき、自分で今、子どもに発した言葉、それから自分が今、行っている環境、それら全てをマンツーマンで、指導してもらえます。その中で先生が言われたように職員がぐんぐんと育っていく現状を目の当たりにしてきました。今年も少し、携わらせていただき、先生が一生懸命、責任を感じて、自分の質を高めていく思いを持ち、学ばれる姿勢が非常に大事なことだと思います。幼児期の教育は、一人一人の発達特性に応じて、指導や援助を行うこととされています。ケースバイケースで、1人がこうであっても次の1人も同じにはできない、非常に見えにくい教育だと思います。それだけに先生の質が問われると思います。ざっぱな事務に追われていますが、先生がみんなで集まり、自分の園の子どもたちにどのように関わって行けばよいのかを学び合う機会が必要だと思います。そのようなこともふまえて、質の向上に繋がっていくと思います。勤務時間内の研修や職員間でお互いに学び合う機会を十分に確保して、保護者のニーズに応えられる質の高い保育を提供さ

れることを切に願っています。

会長：ありがとうございます。さまざまな提案をされていたと思います。質の向上という言葉はよく使う言葉です。日本全国、さまざまな会議でも使われ、大学の講義でも使っています。非常にシンプルなものでも構いませんが、具体的に何が必要かを出すことが求められています。それが実際に実施可能であるということ、無理をしないで日常を暮らしていてできるものとして、国が「早寝・早起き・朝ごはん」のキャンペーンを出しました。100%とは行きませんでした。ある程度、意識することで少しは解決されたかもしれません。そのような具体的なものを明示すること、実施可能なものに変換することが必要だと今、感じていました。

もう1つ、お聞きしながら、ざっぱな事務という言葉が出てきました。今はざっぱな事務かもしれないものを八幡方式でその先生の質向上に必要なチャートの様式に変えてしまったらどうかと思いながら聞いていました。時間は限られていますので、ダラダラと時間を取って、先生たちが疲れてはそれこそ、子どもにもよい保育はできません。これは家庭でも言えることだと思います。お父さんとお母さんが幸せならば、子どもも幸せに感じると思います。おそらく、そのあたりの歪みそのまま子どもに来ていることが積み重なり、現状があるのではと今のお話を聞きながら考えていました。先生方は思うことが多々あると思いますが、他にはいかがでしょうか。

委員：途中入所では0、1歳児が多く、配慮が必要な子どもや家庭が多いことが現状です。配慮が必要な子どもや家庭に対しては、人員配置のかたちで配慮していただけますが、それだけではいけないと思います。先ほどから言われているように保育園では1日中、子どもが朝早くから遅くまでいて、先生たちは疲れもしていません。どのあたりで自分の保育を振り返るのか、そして、子どものことをどのように考えていくのかを思ったときに時間の確保ができないことが保育園の現状です。公立は、特にそのあたり、限られた勤務時間内でどのように子育てのことを考えていくのか、さまざまな工夫をしながら取り組んでいますが限られています。先生が言われていましたが、保護者が安定すれば子どもも安定するとともに、保育園内や保育士がしっかりと安定した状態で子どもに向き合えることが子どもの安定に繋がります。研修だけではなく、子どもをどのように見ていくのかの振り返り時間を確保していきたいことが現場の声です。

会長：ありがとうございます。言われている通りだと思います。

先ほどから言おうと思っていましたが、家庭への支援について、どのように行政は入っていくのか、従来の「家庭は家庭だから、外から口を出してはいけない」

という考えはやめた方がよいのではと私は思っています。お父さんとお母さん自身に、地域や年配者からの学びが少し伝わっていないところがあります。私たちは便利なことを勝ち取るために、大事なことを落としてしまったのかも知れませんが、その時に戻ることはできません。家づくりのように、人としての基礎がしっかりしていなければ、その上にしっかりとしたものを築けません。そのあたりの工夫もこれからいるのかと思いながら、聞いていました。他にはありませんか。

委員：配慮が必要な児童に対する教育・保育の充実とあります。私たちは、今年4月に児童発達支援事業所を開所させていただきます。公立保育園や幼稚園、私立保育園や幼稚園、認定こども園と連携させていただくことになっていくと思います。建物を建てている途中でホームページやパンフレット等ができていませんが、パンフレットができ次第、みなさま方へごあいさつに参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。私たちのところは、障がい福祉課、こども発達支援センター、児童相談の教室等も連携して、虐待ケースについても支援していくことにもなっていくと思いますのでよろしく願いいたします。

会長：そのようなところを開設していただけることは非常にありがたいことだと思います。先ほど、先生のお話を聞いていて感じましたが、発達支援に関する考え方を少し変えた方がよろしいのかと思いました。保育園などで過ごせる子どもも、その中には大勢いると思います。お互い、その方がよい社会、豊かに過ごせるのではないのでしょうか。また、さまざまなタイプ、個々のタイプがある中でそのあたりをどのように考えればよいのか、専門家だけが知っていてもいけないと思います。一般の方たちがしっかりと知識を持っていること、理解することが非常に大事だと思います。そのあたりのご指導をいただけるとありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。他にはいかがでしょうか。

委員：私は民生委員ということもあり、地区の保育園にときどき行き、先生方がどのように関わっているのか等を見させていただいています。早い子どもは16時30分になれば、お母さんやお父さんが迎えに来ます。中には、非常に緊張感を持っているお母さん方がいらっしゃいます。そのようなお母さんについて、私は園長先生とよくお話をすることがありますが、先生がその中で一生懸命に保護者の方とお話をして、困っている部分を引っ張り出して、関わっています。私が子どもを育てているときは近所に親戚がいるわけでもなく、幼稚園に通わせて、1人で4人の子どもを育てました。幼稚園教育と保育園教育は少しずつ異なると思います。しかし、子どもの関わり方としては変わることはないと思います。この更なる課題についての対応は、今から考えていくことではないと思います。

実際に八幡市の中で取り組んでいることは多いので、就学前教育・保育の更なる充実については、よいところを伸ばしていき、みなさんで考えていければと思います。

委員：現状の幼稚園や保育所等で指導に当たられている個々の先生方の努力というのは非常に大きなものがあることをこれに関わっているから思うのではなく、日頃、自分の生活環境、周辺を見ても感じています。敬意を表するのみです。それにも関わらず、大体が及第点以上で100点満点の努力をされているにも関わらず、まだ足りないところを追い求めて、何とか解決しようとされる真摯な姿には頭が下がります。そのような印象を持ちます。

話が変わりますが1つ、アンケートの中身について、私はどうにも理解できない、腑に落ちないところがあります。その1つが満足度と重要度です。重要度とは、判断や評価するためのもので、いったい何に対して重要であるかが分かりません。良い施設等を選ぶためにはどのようなことが重要であるのかという場合は理解できますが、たとえば、「教育・保育の内容」の重要度と「送迎の利便性」の重要度は同じ土俵では理解できません。何かを目的とした重要度のような捉え方をしなければ、ただ項目のみを羅列すると、回答される方は、ほとんどが重要との答えに流れてしまう印象を持ちました。もう1つもアンケートについてですが、重要ではない場合、重要でないところは大変不満でも構わないとして、切り捨てて、より重要なところをしっかりと取り組むことが重要だと思いました。私が思う重要なところは給食ではなく、子どもへの接し方のような気がしました。

会長：ありがとうございます。このあたりについて、何かありますか。

事務局：先ほどのアンケートでの設問は満足度調査について、あなたが施設を選ぶときに何を基準に選ばれているのか、おそらく給食が重要ということはその施設に給食があるからここを選びました、給食がないからここを選びました、この施設はきれいだからここを選びました、施設がきれいなことが選択肢の中で重要としているのか、教育・保育内容を重要としているのか、それに対する満足度、期待度と重要だと思っていたが結果どうだったのかというところです。先ほど、説明をさせていただきましたが、八幡市の就学前施設の満足度調査について、実は十数年前にも同じような調査を保育園のみを対象に行っていました。非常に高い数字で9割近い満足度を得ていました。今回の結果でも「送迎の利便性」以外は、非常に高い結果を得たと思っています。重要度は、結果が出ているように保護者の方はほぼ全ての項目で重要のようです。施設の区分によってもわりと顕著な結果が出てきていると思います。そのあたりからもここはどうあるべきなのかを探

れると思います。

もう1つの大きな柱は、就学前施設に期待することです。こちらは身に付けてほしいことと期待することです。ここは先ほど説明をさせていただいたように大きな差がない結果になっています。ご質問のありました重要度と満足度はそのような意図でさせていただきました。

会長：よろしいでしょうか。これからのものを考えるときのちょっとしたヒントとして考えていけるとと思います。後はよろしいでしょうか。

委員：私もこのアンケートを見させていただき、ほとんどのところで設備や教育・保育、また安全面でも満足度が高いです。それが更に重要であるとあります。今、お話がありましたが、送迎、駐車場の問題は保育園も幼稚園も非常に大きな問題として捉えています。八幡市のある保育園では、90%の方が車に乗って来られていて、大きい駐車場が必要です。そのような問題もニーズとして捉えていくと難しい問題が出てきます。駐車場問題は全国的な問題ですが、今後考えていかなければならない問題かと思いました。

会長：ありがとうございます。

委員：私は子どもが高校と中学校のため、この時期のことはあまり記憶にありません。今回のアンケート等を見せていただく中で、このアンケートは今年のみ、取ったのでしょうか。去年も取ったのでしょうか。

事務局：取っていません。

委員：数値がよく書かれていますが、前回分があれば、比較して、どのくらい変わっているのかを知りたいと思いました。実際、幼稚園の先生方は、これを持ち帰って、参考にすると言われていますが、もっと掘り下げたところをされた方がよろしいかと思います。よいことしか書かれていません。実際、子どもを通わせていたときは園に対して不満は多くありました。そのようなことが改善されているのかと思いました。今も改善されている様子はありません。

会長：そのようなことを知らせる場所はかなったのでしょうか。

委員：先生は親に一生懸命にアピールするばかりで、子どもが帰ってきて、子どもの口から発している言葉は先生がヒステリックとかしか聞きませんでした。先生も人間で怒ることもあり、そのあたりは仕方がないと目をつぶっていましたが、園児の数が多くなり、1人の人数で見られない場合は2人体制で進めるべきです。園児数を増やしているのは園です。30人学級で30人を超している学級があります。見られない場合は増やさなければよいのではないのでしょうか。自分たちの利益のみを取るから増え、その八つ当たりが子どもに行きます。先ほど、先生の労働時

間が長いと言われていましたが、2体制等を組めばよいのではないのでしょうか。人員を確保しなければいけないのであれば、統合して、先生の数を確保すればよい話ではないのでしょうか。認定こども園がよいのであれば、認定こども園に向けて、どのように動くかだと思います。

会長：言われていることもよく分かります。ここで言っていることは自分の園の自慢ではなく、保護者がどのように感じているのかについての意見です。様々な問題が出てきていることは、この前から見ていると思います。それと突き合わせて、より良い園を新しい制度に併せてつくっていくことがこの会になります。部分的に突き上げて良いかたちはできませんので、全体的に見ていこうというのがこの会です。たぶん、通われていたときに意見を言える場所があったらよかったですと思います。

委員：園の先生に対しては言っていましたが、聞き流されてきたので今があると思います。幼稚園児は幼稚園で終わるわけではなく、小学校、中学校と子どもは上がっていきます。実際、小学校の蓋を開けると、子どもたちは大変なことになっていることを知っていますか。

会長：そのような問題もあり、小学校の先生にも話を聞こうと思います。八幡がこうだからこうだったと言ってしまえば、それで終わりです。それを少しでも良くしたいのがこの会です。委員のときはそうだったかもしれませんが、それでもその話を出していただいたことで、私たちの考え方もそのようなことがあったということで少し修正していきます。

委員：私は中学に関わっているので、小学校に上がるまでをどうしていけばよいのかか考えていません。

会長：幼稚園がなければ、小学校はありません。時間はかかるかもしれませんが、まずは就学前をしっかりと取り組んで、次に、おそらく上に積み重なっていく別の会があると思いますので、そこに繋げていきたいと思います。その前に、家庭教育についても少し言及していければと思います。もう1つお聞きしたいことは、小学校ではさまざまな施設から来ている子どもの姿がどうなのか、先生にお伺いできればと思います。

副会長：以前は、公立幼稚園も八幡市立附属幼稚園と言われていた時代があったと思います。各小学校に幼稚園が付いていて、多くの子どもたちはその幼稚園から上がってくる。もしくは、保護者の就労状況に応じて、保育園から上がってくるかですが、保育園児は少なかったです。施設数は2、3園ぐらいであったと思います。今、私は小学校にいますが、子どもたちは20施設ぐらいの保育園や幼稚園から来

ていますので、保育内容が非常に多岐に渡っていて、保護者の考え方も子どもの考え方も多岐に渡っている現状があります。そのような中で子どもたちの教育を行うことは、まとめていくことが非常にむずかしいと感じています。話は異なりますが、ここに就学前教育・保育の充実でまとめていただいた6つの項目に整理していただきましたが、この6つのことは全て非常に大事です。出ていた話は、小学校現場でも同様に、行政、施策、さまざまな関係機関に助けをいただき、教育を進めていっています。就学前についても、さまざまな関係機関が力を合わせていかなければ、非常に厳しい状況があると思います。今後、この6つの中でどこにどのように力を入れていくのかも考えていかなければいけないと感じています。

会長：ありがとうございます。これで1人ずつ、お話を伺いました。時間を過ぎて、先ほどの意見について、少し私の意見を申し上げたいと思います。家庭の育ちというのは、個人の子どもを育てることだと思います。今、私たちが話している中心になることは集団生活の最初に何が必要かです。そのとき、委員が出会った環境がそのような先生であった場合もあります。さまざまな人がいますので、そのような環境にあったのかもしれませんが。集団の最初の教育が終われば、次の教育に行きます。

話が飛ぶかもしれませんが、子の育ちを猿の実験で話をすると分かりやすいです。たとえば、アーモンドが大好きな猿に下剤を混ぜて食べさせるとひどい下痢をして、その後は決して、それを口にしなくなります。これが個人の育ちであり、家庭で育ってきた育ちです。集団に入った生活の最初の育ちは何かという、これも猿の実験ですが、猿は蛇にかまれる状況を見た場合、そこにいた他の猿たちも一瞬にしてそのことを学びます。そのことが集団の意味であり、一瞬にして、そのことを学びます。1人の場合は、学び時間が多く必要ですが、集団では一瞬にして体験を共有し、多くのことを学べるのが集団の生活だと思います。大事な基礎的なことを学ば、次の学年でさまざまなことを学びます。そのプロセスでいろんな先生がいて、うまくいかなかった、いけないことがあったことは別のこととして、先生のあり方として、これから話し合っていく話の中には入れていきたいと考えました。他にはありませんか。なければ、ここでこの話を終わらせていただきたいと思います。

・その他

会長：後は連絡事項になりますか。

事務局：会長、ありがとうございました。みなさまも長時間に渡り、熱心なご議論をいただき、ありがとうございました。本日の会議で疑問点等があれば、お気軽に事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

(資料3・次回会議について説明)

2月21日(火) 午後2時 八幡市役所分庁舎 会議室A)

3. 閉会

事務局：これにて閉会いたします。みなさま、ありがとうございました。

(閉会)